

女性の「学ぶ・働く・生きる」応援フェスタ 基調講演

# 女性のキャリア形成のための 「学び直し」と地域連携

2019年2月24日

治部れんげ

# 本日本話すること： 「学び」の企画を作る方向けに

- ▶ 「学び直し」の重要性
- ▶ 女性のライフ/キャリアステージにより異なるニーズ
- ▶ 社会参加、再就職、参加者の意識・家庭環境の多様性
- ▶ ニーズに合ったプログラム提供の必要性

# 学び続けることの必要性

- ▶ 人生100年時代
- ▶ 70歳過ぎまで働く人は増える
- ▶ 社会で、労働市場で必要とされるため
- ▶ 自己肯定感や自立心を養い、自己決定できる
- ▶ 「学び」のツール多様化：  
大学院、大学の生涯教育講座、NPO・自治体が提供する講座  
オンライン講座など

# オンライン教育の隆盛

## ■ アメリカ発祥のサービス日本語版

Coursera: <https://ja.coursera.org/>

⇒有名大学の認証、学位が取れる場合も

Khan Academy: <https://ja.khanacademy.org/>

⇒子ども向け理数系学習動画

## ■ 日本の大学等が提供するサービス

Gacco: <http://gacco.org/>

⇒無料で様々な分野を学べる

大学、NPO、自治体主催の講座は新しい教育提供者をどう位置付けるか？  
教材として活用する、ライバルと考える...等

# 「学び」の提供側が注意すべきこと

## ▶ 目的意識を明確に

- ・ 何らかのスキルを獲得するためか。
- ・ 就労（再就職、転職）につなげるためか。
- ・ 社会参加に必要なことを学ぶのか。
- ・ 教養のためか。

## ▶ KPIを考える

- ・ 学ぶ側は「投入時間」を正当化したい
- ・ 主観的アンケートで効果測定？
- ・ 目的に応じて達成度を測る（定性的、定量的）

# 再就職できる社会を作るには？

## 本人

- 真の付加価値を身に着ける（マーケティングをやりたければデータ分析を学ぶ等）
- 厳しいフィードバックを糧にする（ダメ出しを生かし、より難しく給与の高い仕事を得る）

## 雇用主

- 非伝統的な働き方に慣れる（主婦、派遣、パートを固定観念で見ない）
- 業務内容を把握する（従業員皆で、何となくチームワークをしていると多様な人は生かせない）

# 「学び」と社会参加／再就職 大切なこと

## ▶ 目的を明確に

社会参加：座学の講座に出席するモチベーションを持ったことに意義がある

再就職：学んだ結果が仕事につながることに意義がある

⇒両者は似ているが、大きく違う

## ▶ 企画のポイント

社会参加：子どもを預けるのに抵抗がある人は、子連れ参加できるように  
預けることのメリットを共に考えることも支援

再就職：出口（就職先）を意識した実践的プログラムを  
家庭内のケアワーク再分配にも配慮

# 企画立案のチェックリスト： 「参加者に役立ち公共性があるか？」

- 目的が明確である
- 目的に合わせた企画内容になっている
- 想定する参加者の属性、心理状態を想像できる
- 想定する参加者の生活実態に合った開催日時になっている
- 想定する参加者の目に触れるところに告知している
- 想定する参加者が心理的に安心できる工夫がある
- 似たような内容は近い期日に近隣では学べない
- 行政・NPO・大学等、公的機関が企画する意義がある（民間ではできない）
- 企画参加の前後で参加者の変化を想像しストーリーにできる
- 参加者1人あたりの実施コストは他の企画と比べて妥当である



# 最後に：私の経験

2016年4月～2018年3月、一橋大学大学院経営学修士課程  
経営学を深く体系的に「学び直し」  
⇒修士論文を書籍に  
⇒「企業の情報発信とジェンダー」仕事の幅が広がる

大学院サイトに連載中のコラム：

<http://www.ba.hub.hit-u.ac.jp/column/2019/02/post-7.php>



# まとめ

- ▶ 社会人が学び続ける必要性
- ▶ 方法は多様化（オンライン／対面、座学／実践、短期／長期）
- ▶ 「女性」もライフステージ、キャリアステージにより多様
- ▶ どんな人に、どんなことを提供できるか
- ▶ 必要なのは「近くで学ぶ機会」「学ぶ時間」「学びと就業の接続」  
「自己肯定感」「履歴書に書ける経験」⇒果たして何なのか？

「学びたい」人は増えています。

大学、NPO、自治体でどんなことを提供できるか、じっくり検討して下さい。

最後に。学ぶと「できること」が広がる例として、表紙について。